
STUDY ONE ～中学生の学習支援～

中川優佑奈	社会領域専攻	1 回生
宮島孟史	社会領域専攻	1 回生
安永和貴	社会領域専攻	1 回生
山下穰大	社会領域専攻	1 回生
福島嵯都	理科領域専攻	1 回生

3. 助言教員

伊藤悦子先生（教育学科）

第1章 プロジェクトの概要

1. 「STUDY ONE～中学生の学習支援～」

伏見区を中心に、子どもたちが安心して学習できる空間をつくる活動を行う。

2. 代表者及び構成員

・代表者

阪本菜菜 発達障害教育専攻 2 回生

・構成員

下西紀輝 社会領域専攻 4 回生

今川裕也 教育学専攻 3 回生

立花麻衣子 教育学専攻 3 回生

森田開一 教育学専攻 3 回生

稲岡言美 国語領域専攻 3 回生

梨木悠 国語領域専攻 3 回生

芦田愛依 英語領域専攻 3 回生

白波瀬翔太 英語領域専攻 3 回生

田中海里 英語領域専攻 3 回生

西田光 家庭領域専攻 3 回生

上松夏林 教育学専攻 2 回生

森垣奈々 教育学専攻 2 回生

横田美莉 教育学専攻 2 回生

村上結菜 発達障害教育専攻 2 回生

渡邊鈴佳 発達障害教育専攻 2 回生

下里愛子 理科領域専攻 2 回生

松井遼太郎 美術領域専攻 2 回生

金原早希 社会領域専攻 1 回生

下田馨介 社会領域専攻 1 回生

第2章 内容や実践経過など

1. 放課後学習教室 STUDYONE

時間：毎週金曜日 18:00～20:00

場所：伏見いきいき市民活動センター

STUDYONE の主な活動は、この「放課後学習教室 STUDYONE」という学習支援中心の放課後学習教室を開催することである。学習に適した環境づくりをし、中学生を対象に呼びかけ、藤森中学校と連携しながら中学生を包括的にサポートすることができた。

今年度は4月から活動をスタートさせることができたものの、コロナウイルス感染症の影響で10月まで教室の開催が不安定であった。昨年度ほとんどの中学生が卒業したことで、新たに中学生の参加を募ることになったのだが、活動再開と同時に中学生を迎え入れることができるように中学校と連絡を密に取った。活動が休みの間も団体に借用しているスマートフォンを活用して、つながりが保てるよう中学生と連絡を取りあった。

現在登録者は中学3年生が3名、2年生が2名、1年生が8名の計13名である。毎回の活動では10人程度が活動に参加しており、学校の宿題や持参した問題集などに

取り組む。大学生は中学生がわからないところを教えることに加え、学習方法を提示することで、次につながるきっかけづくりも行う。また中学生とのコミュニケーションを大切にしており、居場所支援としても機能できるようにしている。

さらに昨年度同様、コロナウイルス感染対策のガイドラインの作成や、参加者同士の距離が十分に取れるよう机を配置することで、安全に活動が行えるよう工夫をした。

2. 講演会の参加

助言教員の伊藤悦子先生主催の講演会に参加した。

(1)「あっとすくーる」代表渡剛さん・橋口大知さん

8月3日(火)・10日(火)に京都教育大学で行われた講演会に2日合わせて希望者22名で参加した。3日は「コロナ禍における母子家庭の現状について」、10日は「子どもたちとのかかわり方について」をテーマに、実際に苦しい経験のある渡さんや橋口さんの講演を聞き、改めて子どもたちを取り巻く問題や、活動を通してそれをどのように捉えていくのか検討した。

(2)元藤森中学校校長浜矢全先生

11月9日(火)に京都教育大学で行われた講演会に希望者12名で参加した。「中学校現場での実践」をテーマに、藤森中学校の特徴や地域性のある人権教育の実践について講演を聞き、STUDY ONEが対象とするテーマについてさらに検討した。

3. 他団体への視察

(1)「こどもソーシャルワークセンター」

11月4日(木)に伺わせていただき、ひとり親家庭や不登校、勉強や集団生活への不安など様々な困りを抱える子どもたちの居場所としてどのように機能しているのか、子どもたちの夕刻を支える活動「トワイライト」の見学を中心に、居場所の機能と子どもたちとのかかわりについて学んだ。

(2)「あっとすくーる」

11月17日(水)・19日(金)・26日(金)の3日間にわたって伺わせていただいた。学習塾の様子の見学に加え、一人一人に合わせた学習方法や学習塾を軸にしながらも居場所として機能している仕組みについて、参加している学生や職員の方と意見交流を行った。

(3)「NPO 法人そら」

11月16日(火)・30日(火)の2日間にわたって伺わせていただいた。放課後支援である「ひとり親家庭支援(学びの広場)」の活動について説明を受けたのち、実際にボランティアスタッフと混ざって、子どもたちとかわったり、食事や学習支援の活動に参加させていただいたりした。

第3章 結果や成果など

1. 放課後学習教室 STUDY ONE

昨年度同様、今年度も担当制を継続し、一人一人中学生と向き合いながら活動をすることができた。今年度は中学生のほとんどが新規の中学生であった。特に1年生が多く、学習意欲が低いように見られたが、大学生とかわる中で学習に向き合ってくれる中学生が増えた。また今年度の中学生は基礎的な部分のつまずきが多く見られたが、

一緒に活動しその子にあった学習方法を模索することで、中学生の学習への意識を変えることができたのではないだろうか。コロナ禍で昨年度ほど中学生とかかわる時間があったわけではないが、来てくれた時間を大切に関係づくりに取り組むことができた。継続した参加が難しい中学生には、電話で対応し連絡が途絶えないようにした。

また学習環境の工夫としては、中学生同士の関係や求めている雰囲気等を考慮して、部屋分けを行った。

さらに大学生だけで責任が持ちきれない問題が発生した場合には、中学校と連携ししっかりと対応することができた。

昨年度の反省を生かして、反省会を改善したりノートを活用したりすることで、情報共有についての課題は改善された。

2. 講演会の参加

(1)「あっとすくーる」代表渡剛さん・橋口大知さん

コロナ禍におけるひとり親家庭の現状や「あっとすくーる」の活動について知り、STUDY ONE の活動の意義について改めて考え直すことができた。ひとり親家庭の境遇について実体験をお聞きすることで、中学生の理解に関する視点や考え方を知ることができた。講演会后、コロナウイルス感染症の影響で活動ができず、活動と並行して理解を深めることはできなかったが、しっかりと時間をとってオンライン上で振り返りを行うことで、中学生がSTUDY ONE に求めていることや大学生がかかわる意味等について議論し、実践に向け理解度を高めることができた。

(2)元藤森中学校校長浜矢全先生

実際の人権教育をされてきた先生の話聞いて、現在の人権教育の姿を知ること、当事者意識を持つことの重要性を知った。旧同和地区というSTUDY ONEの活動場所の意味を考えると、さらに責任をもって「子どもの貧困」という活動のテーマや中学生の抱える課題について考え、学び続けていく必要性を感じた。

3. 他団体への視察

(1)「こどもソーシャルワークセンター」

中学生とのかかわり方や環境づくりについて学ぶことができた。子どもたちとのかかわり方に特化されているため、リラックスの方法や子どもに合わせた支援の仕方について知る貴重な機会となった。家族みたいな近いかわりの良さを実感することができたが、たまに会うお兄さん・お姉さんというようなSTUDY ONEの関係性を変えることとは違うように思えた。そのため今の活動をしっかり見つめ、STUDY ONEらしいスタイルに落とし込んでいく必要がある。

(2)「あっとすくーる」

一人一人に合わせた学習方法について学ぶことができた。学習の選択肢を提示したり場所ごとに雰囲気を変えて集中しやすい環境づくりを行ったりする等、学習教室と居場所の二面を持つ団体として学ぶ点が多かった。また参加している学生や職員の方と意見交流を行ったことで、共通認識をしっかりと持つことの重要性を改めて感じた。今後はさらに活動する中で出た意見を構成

員同士で言語化したり、貧困や家庭の様々な問題に触れるとともにそれに関連した STUDY ONE の活動について検討したりする時間を確保していきたい。

(3) 「NPO 法人そら」

子ども達が主体的に活動しやすい環境づくりについて学ぶことができた。アンケートを最初にとることで子ども達が学習スタイルを選べるように工夫されており、STUDY ONE では毎回の活動で記入しているふりかえりシートを活用することが、活動内容を充実させることにつながるのではないかと感じた。

また学年が混ざった教室内でモデリングの効果が見られたため、今後の教室の配置を考えるうえで参考になった。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

今年度はコロナウイルス感染症の影響で活動が十分にできなかった時に、中学生に対して何も対策ができなかったことが反省である。昨年度の活動を生かした対策ができないまま活動期間が空いてしまった。団体のスマートフォンを活用して連絡は取っていたものの、学習面のサポートが不十分であった。そのため今後対面での活動ができない時の対策として、ICT 機器が活用できるよう準備を計画的に行っていきたい。

一方かかわりの中では登録した中学生とのつながりを保つことができた。中学生の参加目的に応じて、学習支援か居場所支援か柔軟に機能することができた。これは団体が大きくなり、様々な立場の学生が混ざることによって学生の層が厚くなったことが要因だと考えられる。

また講演会への参加や3団体に視察に行けたことは、今後の活動につながるよい機会になった。多くの知見を得ることができたことに加え、他団体と比較して自分達の団体を客観視することができた。そこで自分達の強みに気づくことができ、何ができるのかを活動と結びつけて考えることができた。来年度も様々な活動を知ることで、多様な支援ができるよう考えを深めていきたい。